

第10回奈良 ESD 連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 大西浩明

日時：2021年1月21日（金）19:00～21:30

方法：Zoomによるオンライン

出席者：【現職教員等】圓山、吉田、山方、島、中澤哲、川崎、阿賀（兵庫教育大附属小）

【学生】亀井、北、西條、櫓、上田

【大学】中澤、河野（大分大学）、大西 計15名

内容【学習指導案の検討】

1. 「大切にしたい言葉」～ストップ温暖化メッセージ～（6年国語科） 阿賀先生

国語科を教科書に閉じずに社会に開く。実生活とつなげることで子どもたちの主体性を引き出したい。環境問題に対して、大人が何もしていないのではないかと気付いてほしい。

- ① 普段の暮らしと環境問題をつなげて考え、自分の生活の中でゴミをだしているもの、電気を使っているものから興味のあるテーマを選ぶ。
- ② 温暖化を防ぐために具体的に声を挙げている人について知り、自分たちにできることをクラスで考える。
- ③ 自分の思いや考えをもてるように決めたテーマで取材をする。
- ④ 情報を付箋に整理し、発表に向けての計画を立てる。
- ⑤ 序論・本論・結論で分担を決めて、グループで1つの意見文を書くためのアウトラインを決める。
- ⑥ クラスで発表するために、プレゼンテーションの準備をする。
- ⑦ クラスへのメッセージを伝えるためにプレゼンテーションを行い、目標としていることが達成できたかどうか確かめるために相互評価をする。

まずは国語科として、この単元の目標や内容を精査する必要がある。

「地球温暖化」について、もっと子どもが知っていると思ったが・・・

→ グレタさんのスピーチの中にある「大人たちは何もしていない」という言葉を大切に。

「大切にしたい言葉」をそこにフォーカスできる。

導入でスピーチを読むと、子どもがもっと共感できるのでは。

温暖化についてもっと自分事として調べていけるのではないか。

プレゼンするのなら、相手意識をもっと持たせた方がいい。（だれに対して伝えるのか）

どうせなら大人がいい どこまで自分事として考えられるようにするかがポイント

2. 「歴史を学んで？」（中学校2年社会科） 北さん

教科書の学習内容に至る前の導入単元として設ける。

坂上田村麻呂（征服者が英雄視される）を例に、歴史の見方は視点によって大きく変わってくる。

これはESDにおいて双方の人権や文化を尊重するということはもとより、歴史を学ぶのは何を考えるためかということにも繋がる。

歴史は過去から現在に繋がるのみではなく、現在の出来事が未来に歴史になるということでもある。

これは ESD の視点においては世代間の公正として捉えられる。

現在の出来事もまた多様な見方ができるものであると理解することが大切である。

歴史学習の導入で、社会科や歴史学習の面白さは伝わる。

侵略する側と、される側とわけることで、生徒をひきつけることができそう。

単元の流れを具体的にイメージできている点が素晴らしい。一方で、細かに決めすぎていることで、授業が硬直化してしまうのではないか。臨機応変に、指導案から変えられる実践も。

1時間で詰め込んでしまえば、かえってしんどい学習と感じさせてしまう。

→ 2時間で行う方が現実的だろう。

立ち止まってじっくり考えたりと、扱いに軽重つけるのもありでは。

1時間のみでは、資質・能力は身につかない。

現代のコロナ禍が、未来ではどのように語られるのかを考えるのは面白い。

せっかく子どもたちがいろいろな考えを出し合うのに、最後に指導者がまとめては意味がない。

→ 子どもの言葉でまとめさせたい。

3. 「世界から画材が消えたなら」(高校1年美術科) 上田さん

①世界の中には画材はおろか、文房具すらまともに買えない国がたくさんある。。自分たちが当たり前に使っている画材を使わずに、作品制作を行うためには何を使えばいいかを考え、代わりになる色、素材を探す(自然物)。

②秋の色彩の幅の広さや配色、色彩調和について学習し、それらが自分達の制作する作品にどのように活用できるかを考える。

③素材を集めに行く。籠や竹熊手、竹箒を使い素材を集めて、8人グループで制作していく。

④作品を鑑賞しあう。

どのような作品をイメージしているのか? → 半立体・半絵画のイメージ

8人グループでの作業を考えると、かなり意思疎通を図る必要がある。その話し合う過程が大事。

それぞれが考える美しさは違うはず。

自然物を使うという時点でESDとしての価値はある。

現職教員に指導を仰いで次回再提出。

次回(最終): 2月12日(金) 19時~

検討できていない分が多いので、2グループに分けて検討することも。

予定…葉山(附属中)、足立、西條、檜、福井、上田